

補助事業成果書

1 補助事業の実施方法

(1) タマリバタケの運営概要

1) 有志メンバーによる運営

タマリバタケの運営は、有志メンバーで行っている。

10～15名のメンバーで、男女比は約半々、30歳代～70歳代まで多様な構成である。

メッセージにて日々の連絡や報告、相談を実施している。

緊急時も誰かが声を上げ、反応し、助け合う体制が育まれている

2) 月例運営MTGの実施

月の最終週の土曜日夜を原則として、月例運営会議を実施している。予算執行の状況、課題の共有、前月におきたことの振り返り、次月の活動や作付け計画、長期的な課題共有や方針等、様々な議題をZOOMを用いて行っている。

3) 専門家/有識者も入った「はるなつ隊」「あきふゆ隊」 有志メンバーによる畑運営

24年度は多くの方と一緒に農的活動を楽しむ目的で、春夏野菜の植え付け～収穫を見守るチームを結成し、「はるなつ隊」および「あきふゆ隊」と命名し、メンバー同士で無理なく助け合いながら楽しくお世話する仕組みを作り、運営を行った。募集は SNS およびタマリバタケ前の掲示板にて行い、15名ほどのメンバーがあつまった。

(2) 情報発信による新たなつながりの発掘

1) Facebook/Instagram/ホームページによる発信

SNS (Instagram、Facebook) に専用ページを作り、広報メンバーによる情報発信を行った。

Facebookのタマリバタケグループ：844人（25年3月現在、前年比130名増）。

Instagramのタマリバタケページ：1045人のフォロワー（25年3月時点、前年比167名増）。

NP0法人NeomuraのWebsite内や世田谷区ホームページにもタマリバタケページがある。

https://www.city.setagaya.lg.jp/mokuji/sumai/001/003/001/d00202947.html?fbclid=IwAR3kVcxoyPDjRgCPR00vzbb2-QTONmw33_SuQIRVWMSDLjWbXrBfQ52S6o

<https://www.instagram.com/tamaribatake/>



2) タマリバタケ日記の発行および配布/掲示（1～2ヶ月毎1500部）

元コミュニティマネージャーの城田さんによる描き下ろしの絵を表紙上部にし、季節ごとの出来事をまとめたタマリバタケ日記を発行した。1500部印刷し、上野毛まちづくりセンター管内（上野毛町会、野毛町会、玉川中町会、中町4・5丁目町会）、玉川まちづくりセンター管内（玉川町会、瀬田町会）に配布、タマリバタケ前にも通行人がとっていけるように、設置した。



3) 掲示板による情報発信

タマリバタケ前に掲示板を設置し、今後の予定等、地域に広く情報発信を行っている。



4) タマリバタケ展の開催/巡回

昨年の等々力での玉川支所における展覧会に続き、区内の支所（北沢タウンホール、祖師谷まちづくりセンター、砧総合支所、烏山総合支所）にてタマリバタケ展覧会を実施した。コミュニティマネージャーを務める城田さんの多数のイラスト絵や、参加者が撮りためていた写真等が展示された。



5) 季節感を知らせるコミュニティデイのブラックボード看板

運営メンバー宮地さんによる手書きのブラックボードにより、季節感とともに次回コミュニティデイを知らせている。タマリバタケのエントランスに設置した。



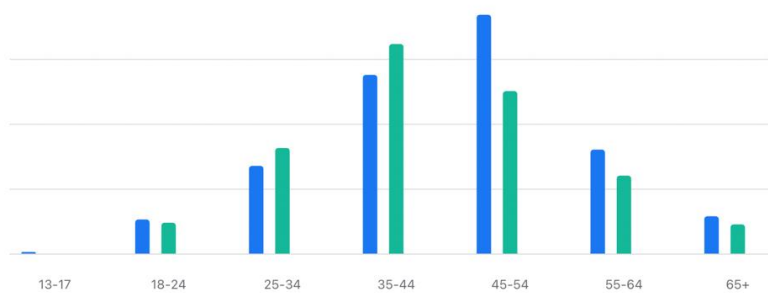
2 補助事業の成果の具体的内容

(1) コミュニティの状況

① Facebook グループ 844 名

年齢・性別 ①

● 53% 女性 ● 47% 男性 ● 0% カスタム



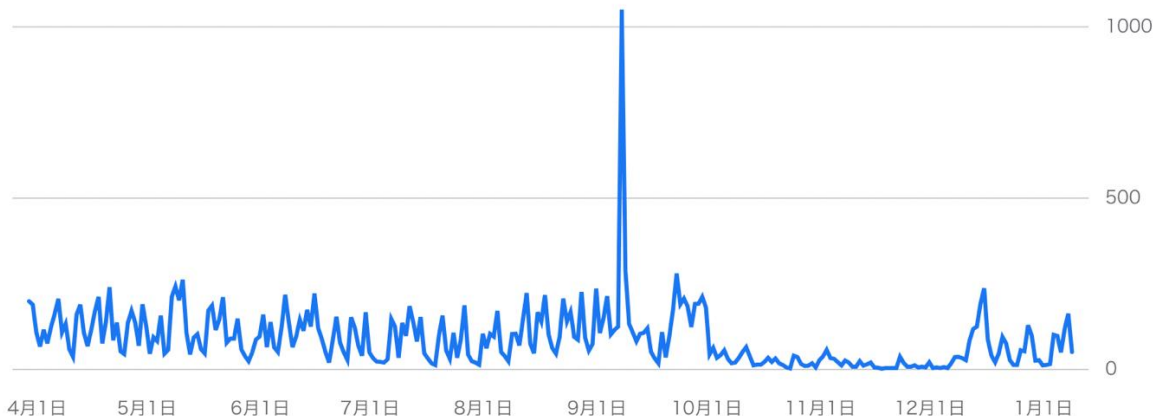
トップ都市

Tokyo世田谷区	276
Kanagawa横浜市	203
KanagawaKawasaki-shi	34
Tokyo渋谷区	17
AichiNagoya-shi	14
Kyoto京都市	13
TokyoOta-ku	11
Tokyo新宿区	8
TokyoSuginami-ku	7
TokyoMinato-ku	6

平均的に 日 200 程度の閲覧があるが、テレビ出演時は 1000 名を超える閲覧

閲覧者24,850人 ①

2025/01/09



(2) 人/自然の豊かな関係性の創造と保全

以下に詳細を説明しますが、4年を通しての成果は人と自然が交流し、当初コンセプトのみであったタマリバタケが実態を持ち、都市空間の中で、人が集まり、会話し、休憩し、交流することで育まれる関係性やコミュニティができたことにある。植物や虫、動物たちに溢れ、普段はすれ違うことのない人々が集い、自然に学び合う。生活の中に溶け込むこのビオトープのようなコモンズになったことが何よりの成果と考える。タマリバタケで出会う人は正直普段何をしている人かよくわからない人もいまだにいるものの、普段の生活の中では、見知らぬ人に自然に警戒してしまうところを、タマリバタケでは自然と警戒を解かせてくれる稀有な場所となった。近くの工事現場の警備員の昼休憩の場所にもなっているし、猫の日向ぼっここの場所にもなっている。こういった場が、街の中に具体的に存在し、人が交流していることが最大の成果と考える。

1) コミュニティデイの実施

1年を通して、毎週土日のいずれかで開催し、本年度は30回程度の開催を実施。

累計 500名程度の参加があった。

日常的な畑の管理仕事、草刈りや種撒き、苗植え、および収穫・DIYを実施した。

2) 植物、野菜や果実等農作物の種植え/苗植え、育成、収穫などの体験

タマリバタケに共感する有識者による作付け計画の立案した上、畑づくりを行った。

タマリバタケには、有機農法からスタートした「四角い畑」、協生農法に触発された自然農法で取り組む「丸い畑」、「キーホールガーデン」、「エントランスゾーン」、「シンボルツリーゾーン」、「藤棚」「斜面」とゾーニングを施し、参加者が思い思いに植物/農作物を育て、鑑賞し、収穫できるような運営を行い、様々な植物、農作物を育てた。また、開園以前から現地に自生していた希少植物（シロバナタンポポ等。以下B）に列記）の保全にも留意してきた。

B) 在来種植物など

- ・開園以前から自生していたと推測される在来種植物

シロバナタンポポ、フキ、ニリンソウ、ネジバナ、ゲンノショウコ、クワ、シャクチリソバ、ヒガンバナ、ドクダミ、カラスノエンドウ、ヤブカンゾウ、イノコヅチ、キカラスウリ、ヌスビトハギ、ジャノヒゲ、ユキノシタ 等

- ・開園以前から自生していたと推測される帰化植物・外来種植物、及び有用植物

セイヨウカラシナ、ハマダイコン、クコ 等

- ・植栽一エントランス道路沿い／世田谷区に自生する植物を中心とした、在来種植物

コバノガマズミ、ユキヤナギ、ヤマブキ、 シロヤマブキ、ハマヒサカキ、アセビ、ヤブコウジ、マンリョウ、センリョウ、タイワンホトトギス、キキョウ、ナルコユリ、タチツボスミレ、ミズヒキ、オミナエシ、ツワブキ、ヤブラン、 ヤブソテツ、キチジョウソウ、ジャノヒゲ、フッキソウ、シラン、タマリユウ、タマシダ、ホタルブクロ 等

- ・植栽一エントランス道路沿い／園芸種、帰化植物、外来種

ギンバイカ、シャガ、タマスダレ、ニオイカンドウ 等

- ・植栽一エントランス道路沿い（レイズドベッド）

ラベンダー、ジャーマン・アイリス、クリスマスローズ、ヒヤシンス、三尺バーベナ、ベアグラス 等

C) 鑑賞用植物

シロシキブ、カンナ、フウセンカズラ、チューリップ、ムスカリ、アサガオ、コスモス、タチアオイ、ヤナギチョウジ、ガウラ、ハツユキカズラ、ワイヤープランツ、キダチチョウセンアサガオ 等





3) 虫や鳥たちの憩いの場にも。

昆虫などの野生動物にとっても憩いの場になっており、都市における生物多様性の保全にも貢献していると考えます。



4) 多世代の世田谷区内外からの人々の交流

タマリバタケには、0歳～75歳まで、老若男女幅広い世代、世田谷区内外から多くの参加がある。コミュニティデイには、5名～30名ほどの参加者が訪れる。TV局の取材をはじめとしたメディア露出も増え、認知度が拡大した。



5) 楽ちん堂との交流/連携

特定非営利活動法人ら・ら・らが運営する楽ちん堂と連携し、
楽ちん堂のコミュニティメンバーが
タマリバタケでのイベント開催やイベント参加等を行っている。



6) 上野毛保育園との連携

四角い畑の一角を近隣の上野毛保育園用とし、保育園による種植え、育成、収穫が行われている。

(3) タマリバタケの拡充/進化

エントランスゾーンの整備/建設

地域住民の方々の参加のハードルをすこしでも低くするため、エントランスゾーンを昨年度設置、今年度は、参加者でワークショップ形式で装飾を行った。



(4) 季節イベント/参加者による自主企画イベントの開催

1) 世田谷記念病院コラボ、タマリバタケでやってみたいことワークショップ

24 年 9 月タマリバタケで今後みんながやってみたいことを共有し合うワークショップイベントを世田谷記念病院で実施した。



2) 大豆収穫イベント

令和5年12月のコミュニティデイにて、大豆の豆取りイベントが行われた。
運営メンバーのひとり金野さんが持ち込んだ大豆を、車座になって参加者で収穫を楽しんだ。



3) 麦を使って昔の農具を体験するイベントin次大夫堀公園民家園

令和6年10月20日、区民やタマリバタケユーザーが次大夫堀公園の民家園で世田谷区の農業の歴史、農家の仕事を学び、またその中でも昔の道具を利用して小麦を食べ物に加工する仕事を体験、伝承するイベントを行った。(運営メンバーの一人川井さんリードによる企画/準備)

令和6年度 提案型協働事業

民家園で 昔の農家の仕事をしよう
タマリバタケ出張企画
収穫した麦で昔の農具を体験しよう

日時 令和6年10月20日(日) 13時半～16時
会場 世田谷区立次大夫堀公園民家園
内容 昔の農村を再現した民家園で農家の仕事を教わりタマリバタケで採れた麦の脱穀と製粉を体験します。麦茶やパンの元を作ってみませんか。
費用 無料
申込 10月18日までにメールか電話でお申込みください。
メール: tamaribatake@neomura.or.jp
(NPO法人neomura)
電話: 03-6432-7148
(世田谷区都市計画課 協賛先)

会場詳細
住所 世田谷区喜多見5-17-14
民家園事務所 電話03-3417-8492

バス: 山手線有明駅下車徒歩15分
バス: 山手線有明駅下車徒歩15分
バス: 山手線有明駅下車徒歩15分

主催 タマリバタケ運営チーム及び世田谷区
共催 世田谷区立次大夫堀公園民家園



4) 新春炊き出し会～タマリバタケ防災イベント～ 25年1月

令和7年1月10日、新春炊き出し会と題し、防災イベントを開催した。広く呼びかけた結果、1月1週目の3連休中ではあったが50名を超える参加者があつまった。世田谷区の受託事業社により近隣小学校に常備されている炊き出しセットを特別にお借りし、アルファ米の炊き出しが行われた。また、参加者によって、麦茶やその場で収穫した野菜も入れた味噌汁も振る舞われた。

令和6年度 世田谷区提案型協働事業

新春炊き出し会
～タマリバタケ防災イベント～

2025
1/11
10:00-12:00

【イベント趣旨】 冬可能な範囲で、炊き出しの機会を増やして冬の寒さをしのぎたいという思いから、2019年には大きな炊き出しがあった。今年も大雪の影響でもイベントが中止にならなうと、つい、自然災害から避難する人が出て、防災に役立つ「食」を、は重要で、
当日は、備蓄(食糧)と「備蓄」の活用、備蓄を使った炊き出しの体験から、
備蓄としてのアルファ米、その他炊き出しを企画して、防災についても考えながら、地域で暮らす人々の防災イベントを開催しました。

【イベント概要】 世田谷区立次大夫堀公園民家園
日時: 2025年1月11日(土) 10時～12時
場所: タマリバタケ (東京都世田谷区上野毛3丁目2番地)
持ち物: 各自でどうぞ
参加費: 無料
お問い合わせ: info@tamaribatake.or.jp (NPO法人neomura)

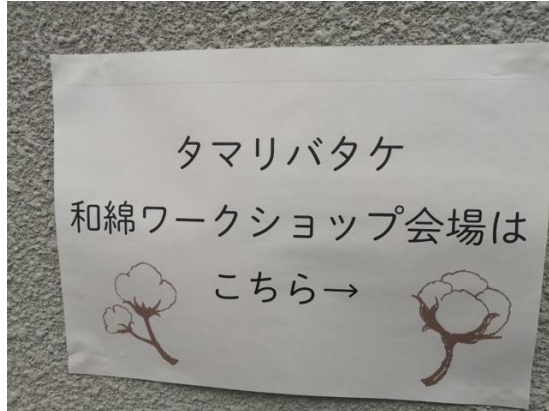
主催: タマリバタケ運営チーム及び世田谷区





5) 和綿ワークショップ

コットン栽培やコットンの実情などのお話と、糸紡ぎ、織りのワークショップを通して、エシカル消費やSDGsについて楽しく学べるワークショップを、運営メンバーのひとりである山中さんリードのもと、世田谷記念病院にて開催。オーガニックコットン専門店「メイド・イン・アース」前田社長をお招きし、実施した。かつて日本でも盛んだったワタ栽培や糸紡ぎ、織りを体験することで、種を絶やさないと衣の自給について、あらためて目を向けてもらえるひと時となった。タマリバタケでとれた和綿で実施した。30名超の参加者となり、満員となった。



(5) 企業連携

1) プランティオ社による生育アプリ/システムの提供

運営メンバーのひとり山口さんのつながりにより、プランティオ社が提供するIoTデバイスgrowを提供頂き、日々の生育状況のモニターを行っている。23年度に続き、今年度も利用した。growは、データ測定とカメラで野菜の様子を確認できて、ナビゲーションにしたがって野菜栽培が簡単になるデバイス&アプリ。設置されたセンサーにより、土中の温度や水分量、日照量などをモニタリングが可能。水分量のグラフが白～薄緑のゾーンに入っているときに、水やりをするといふ等がわかる。アプリ内にはグループチャット機能もあるため、みんなで育成を盛り上げることができる。現在タマリバタケメンバー20名ほどで運用中

(6) 世田谷区内外/官民様々な組織の視察受け入れ

コミュニティ農園を作ろうとする民間事業者からの視察/見学が増えた。

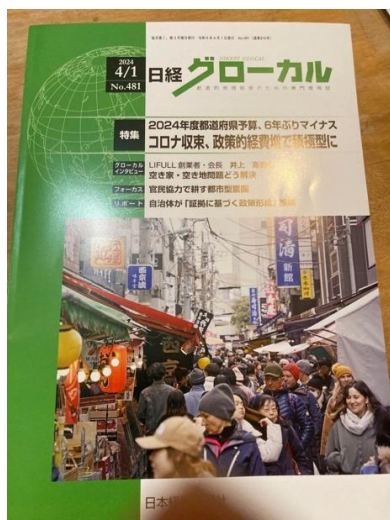
- ・10月：栃木県 工場経営者団体視察
- ・11月：早稲田大学 ゼミ生による団体視察
- ・12月：大阪府 不動産開発会社団体視察

(7) 取材申し込み/メディア露出

1) BSフジTV 番組でのタマリバタケの紹介



2) 24年4月1日日経グローバル記事/WEB記事



官民協力で耕す都市型農園 「ニコタマ」に住民交流の畑

日経グローバル

#日経グローバル #東京 #地域総合

2024/4/8 5:00 [有料会員限定]



東京都世田谷区は区が所有する空き地を農園に生かした（二子玉川駅近くのタマリバタケ）

都市部の空き地や公園で農作業を楽しむ、「都市型農園」の設置が広がってきた。子育て世帯が多く暮らし、企業の本社進出が進む東電鉄の二子玉川駅周辺（東京・世田谷）には近隣住民が集まる畑ができた。地域の活性化につながるとして開園を支える自治体も増えている。（「日経グローバル」4月1日号に収録）

官民協力で耕す都市型農園 「ニコタマ」に住民交流の畑

日経グローバル

#日経グローバル #東京 #地域総合

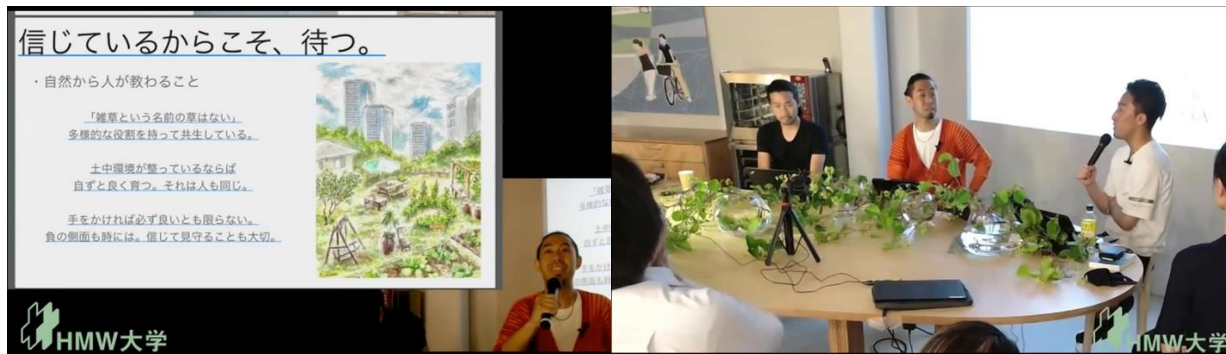
2024/4/8 5:00 [有料会員限定]



東京都世田谷区は区が所有する空き地を農園に生かした（二子玉川駅近くのタマリバタケ）

3) 世田谷記念病院ニコハウスで行われたタマリバタケに関する講演会

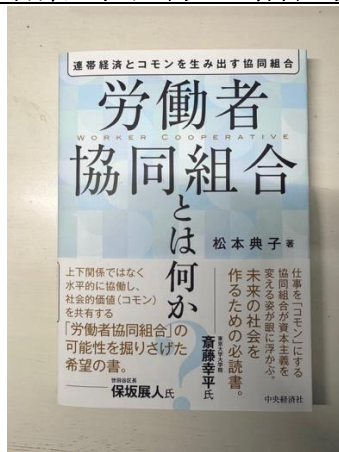
コミュニティマネージャーを務めていた城田氏と neomura 理事 武井により、タマリバタケに関する講演会を実施した。



4) 東京都市大学都市生活学部 板倉先生による論文への記載

- ・コミュニティ政策に関する論文へのタマリバタケの記載

5) 駒澤大学 松本先生 著書「労働者協同組合とは」への掲載



(8) 井戸について

年度開始当初、井戸を掘ることを計画したものが採択されたため、事業を開始した。しかしながら、掘削作業を開始する直前に、世田谷区の別の課へ井戸を掘るための申請書を提出する必要性を、世田谷区担当者から指摘を受けたため、申請書を提出したところ、掘削の許可を得ることができなかったため、断念した。

3 成果の自己評価

(1) 今年度の成果と総括

- ・提案型協働事業の4期目となり、安定した運用状態となった。近隣保育園や工事現場の方が休憩に用いるなど、日常生活の一部としての活用シーンも見られるようになった。
- ・運営を NPO 法人 neomura から、地域社会に移行していく過渡期措置として、「タマリバタケ運営委員会」による運営を目指し取り組みを行った結果、「はるなつ隊」「あきふゆ隊」という畑運営チームが生まれた
- ・タマリバタケでの収穫や炊き出し防災のイベント、次大夫堀公園民家園や世田谷記念病院でのワークショップなど、タマリバタケを起点としたイベントを開催した
- ・農作物以外にも、運営グループ内でタマリバタケで見られる植物について愛着を持った活発な会話が行われた。
- ・近隣住民の参加については、子育て世代や農への興味から中年～シニア世代まで参加があったが、タマリバタケに隣接する住民からの参加まではなかった。これは、それらの住民がそもそもこういった内容に興味がないと考えられることや、世田谷区内のほかエリアでの取り組みを参考にする、近隣でのこういった新たな取組への参加に至るには、そのエリアから逃げられないのが近隣住民であるため、5年以上の長い年月による信頼感（要するにすぐに出ていくわけではないことからの時間による安心の醸成が必要）が必要との事例も聞いたため、まだまだ時間がかかる可能性がある。ただし、参加まではいかずとも、当初は警察を呼ばれる等、信用信頼がなかった状態から、現在は受容されている状態になっており、一定の成果であると考えられる。

(2) 昨年度との違い

- ・事業計画や目的は3期目を踏襲した運営となった（大きな違いを企図できなかった）。
- ・結果として、コミュニティデイの参加者数は昨年を下回った
- ・NPO 法人 neomura のカラーを薄め、「タマリバタケ運営委員会」を重心とした運営を目指した結果、「はるなつ隊」「あきふゆ隊」という自主運営の取り組みが生まれた
- ・一方で、前期まで設置していたタマリバタケにおける、コミュニティマネージャー（運営における中心的存在）の重要性を再確認した一年になった

(3) 世田谷区との「協働」

- ・NPO と世田谷区との「協働」事業最終年度であったため、翌年以降のスキームを協議し、世田谷区にて検討が行われ、結果として、都市計画課からタマリバタケとしての継続と委託事業スキームの公募が行われることとなった。
- ・協働事業当初よりの目的意識のズレを解消しようと努めたものの、そのズレを要因とし、世田谷区と NPO とのコミュニケーション不全が発生した。
特に後半において、十分に協働ができていたとは言えない状態となったが、イベント開催やチラシ配布における必要な連携は行った。

(4) 課題

- ・タマリバタケをどういう場にしたいか？という明確な方針と意思を言語化/図示化し、関係する全ての人々でビジョンや想いを育むことが必要。
(次年度以降についても、各人の想いをどれだけ事業に乗せられるかが重要と考える。)
- ・人と人との新たな関係が育まれる事がタマリバタケの本質的な価値であると捉えているが、可視化しにくく、定量的に測りづらい価値をどのように解釈するかが問われる。
(コミュニティとしての価値をどのように評価するか評価基準が問われることとなる)
なお、参加者の実感やコメント等より、定性面での価値はあると言える。
- ・4年目という安定運用フェーズに入っており、メンバーの固定化、新たな視点や知恵が出づらくなっている。制約の変化や運営の変化も必要な可能性もある。

(5) 展望と結び

- ・私たちはじめ、「タマリバタケ」によって参加者の生活や暮らしが豊かになった。
また、世田谷区への帰属意識も高まった。
- ・「足繁く通う場所」にするには、居住地からのアクセスが重要となる（徒歩や自転車でもちょっとそこまで行ける程度。1 駅以内。1.5km 圏内程度）であることがわかったため、世田谷区内に、「タマリバタケ的な場所」が増えることにより価値があると考え。
- ・タマリバタケに「農の知見」「他地域での実証実験事例の取り入れ」などが加わると、さらに発展的な取り組み・場作りになると考える
- ・本件に限らず、NPO として意志ある提案や協働を通じて、世田谷区がより豊かになるべく貢献していきたい

以上